

# 市長と郡上市の未来を語ろう！

～平成29年度 市長と語ろう！「ふれあい懇談会」～



市では、市民のみなさんから、市政に対するご意見・ご提言を市長が直接お伺いし、市政運営に生かすための広聴事業として「市長と語ろう！ふれあい懇談会」を開催しています。今年度は、「観光立市郡上」をテーマに各分野にわたりご意見を伺いました。今回は、明宝、白鳥、和良会場の意見交換の一部を要約して紹介します。なお、美並、大和、高鷲、八幡会場の様子は次号でお知らせします。

## 明宝会場（8月24日）

### ● 伝統文化の継承について

今後の人口減少により、地区の神楽などの伝統文化を継承していけるか危惧している。地域外の人に手伝っていただきながら何とか神楽を行うことができている。また、この縁で明宝へ移住された人もいる。

神楽を後世に引き継いでいくためには、人手不足も課題であるが、備品の老朽化についても大きな問題となっている。観光立市という面においても、伝統文化の継承は重要なので、老朽化した備品の修繕等について支援をお願いしたい。

市長：祭事については、文化財の保護として対応できないかと考える。コミュニティ助成などの制度の活用を検討いただくとともに、市としても検討したい。

### ● 宿泊施設の改修・インバウンド対応への支援について

宿泊施設の改修補助事業について、火災報知機のみを改修することは補助対象外となっている。消防法の改正により、火災報知機の設置が義務付けられているため、経営自体にも影響をおよぼすこととなる。火災報知機の設置を補助対象としていただきたい。また、インバウンド

対応のための施設改修やWi-Fi機器の整備についても支援いただきたい。

商工観光部長：宿泊施設改修等支援事業は、宿泊者数の増・サービスのレベルアップのための改修に対して行う補助事業であり、現状では、火災報知機の整備については、修繕と同様の意味合いと捉えており補助対象外としているが、今回このような要望をお聞きしたので検討することは可能である。

市長：改修補助制度については、経営自体にかかわることなので検討したい。また、インバウンド対応については、店の表記などの対応の他、接客対応などにも必要である。観光連盟において補助制度もあるので活用いただきたい。

### ● 旧明宝学校給食センターの活用について

旧明宝学校給食センターは、現在使用されていない状況である。地域として新たな商品開発・生産の場として民間事業者が借用して活用できないか。

教育長：施設の借用について、補助金等に関する課題はないと思われる。しかしながら、当該施設は学校の敷地内にあるため、児童の学校生活における騒音・臭気・水質汚濁などの問題

や、施設内を車両が通行することによる安全面での課題があると思われる。詳細等が決まった段階において、相談したい。

### ● 公共交通について

自主運行バスが運行されているが、「道の駅明宝」にはバス停が無い。「道の駅明宝」を福祉の面で活用していくため、高齢者の集まる場所となるよう考えているが、このためには自主運行バスが道の駅に乗り入れる必要がある。路線の変更ができないか。

市長：「道の駅明宝」が国の重点道の駅に選ばれた理由として、高齢者の福祉を進めていくことが一つの柱となっている。高齢者の利便性を確保するため、乗降所の設置は重要と考えている。今年度「地域公共交通網形成計画」を策定予定なので検討していきたい。



## 白鳥会場（8月28日）

### ●観光立市の取組について

スイスのツエルマツトで取り組まれている観光地域づくりについて、郡上市の観光へ取り入れたい要素や機能にはどのようなものがあるか。

市長：ツエルマツトは、150

年ほどの年月をかけて整備されてきた町である。注目すべき点は、町がきれいなことはもちろんであるが、旅行者の様々なニーズに対してきめ細かく対応している点である。また、日本における入会林業に似た住民自治組織（ブルガージェマインデ）が山や高地を所有・管理し、住民主体で観光事業に取り組んでいる。市としても、マーケティングや顧客管理といったソフト面での政策に取り組むとともに、情報提供を行うっていくことが必要と考える。

### ●姫神白山夢幻奏コンサートの実績について

今回、青年会議所等による実行委員会で開催したコンサートを実施したが、素晴らしいイベントに取り組めたという実感と、歴史・文化などの地域の宝物を次へと繋いでいきたいという思いを持った。白山文化も一つの宝物であり、人の心を熱くするもので

ある。こういったものを再確認し、次世代へ引き継いでいくことが必要である。

市長：今回のコンサートにおいて経験された「出会い」「繋がり」「絆」をイベントの開催だけに終わらず、別の形においても生かして取り組んでいただきたい。

### ●道の駅「清流の里しろとり」について

「清流の里しろとり」は、道の駅に認定されて以降、利用者が増加し駐車場は飽和状態となっている。地元農産物の販売も増え、農家の所得の向上にも一役かっているのではないかとと思う。防災拠点施設としての役割も担っているため、駐車場整備について検討いただきたい。

市長：駐車場については、いくらか良い道の駅があっても車が停められなければ意味が無いと考えるが、整備には土地等の問題もあるため検討したい。

### ●あゆパークについて

「あゆパーク」の整備により、長滝周辺のにぎわいが、白山中居神社や長滝寺などへの観光に繋がっていくと思う。「あゆパーク」で収益事業を行うなど、人が集まる施設としていく必要があるのではないか。

市長：「あゆパーク」は学習や

体験等の機能を有した施設であり、主として収益を上げることが目的としていない。しかしながら、隣接する道の駅と全体として収益を上げ、経済的な波及効果が望めるよう検討したい。

## 和良会場（9月8日）

### ●公共交通について

和良町は、八幡町や下呂市などへ車で30分以上かかり、公共交通機関については、路線バスが八幡町・金山間で運行されているが利便性のあるダイヤとなっていない。昨年度から、試験的に下呂市から八幡町へのバスが運行されているが、下呂市から八幡町を結ぶバス路線があれば観光客にとって交通機関の選択肢も増え、また、経由地となる和良町にも立ち寄られる人が増えるのではないかと。下呂市から八幡町までの路線バスの本格導入についてどのように考えられているか。

市長：下呂・八幡間のバス路線が運行されることになれば、非常に利便性が向上されると考える。昨年からマイカー以外で下呂市を訪れる観光客を郡上市へ呼び込むため、試験的にバスを運行しているが、多くの乗客がある状況ではない。現在の取組を続けながら、可能であれば民

間事業者により運行いただき、人の流れの一つとなっていけばと考える。

### ●移住定住事業について

平成27年度から行っている移住促進事業において、和良地域ではこれまでに15世帯31名の人が移住された。和良地域は、病院・学校・郵便局等もある「いい塩梅の田舎」とPRしている。

人口減少は今後も進んでいくと思われるが、「いい塩梅の田舎」が持続できるよう支援をお願いするとともに、関東地方の人にもっと郡上市に目を向けてもらえるよう取り組んでいただきたい。

市長：市としては、高齢者だけでなく子どもを産み育てる世代の人にも移住していただけたら地域の活性化になると考えているので、「郡上カンパニー」などの施策を進めていきたい。また、関東地方へのPRについては、「郡上藩江戸蔵屋敷」といった事業が提案されたことを狙ったもので、今後も取り組んでいきたい。

### ●河川環境の整備について

地域協議会の活動として、和良川の環境保全活動を行うこととしている。地域の宝である「和良鮎」「ホタル」「オオサンショウウオ」を河川環境の保全・美

化により後世に残していくことを目的として実施する。河川美化活動については、自治会、漁業組合、建設業協会など、それぞれの団体も取り組んでいるが、地域協議会としても地域住民を巻き込みながら活動の輪を広げていきたいと考えているので、支援をお願いしたい。

市長：市では「清流長良川等保全条例」を制定し、市内の清流を市民のみなさんで守り活用していくこととしている。条例の精神にのっとり、常に川を大切に活用していくことは、市としても大きな施策と考えている。河川管理者との協議等については、市としても対応したい。「和良鮎」「ホタル」「オオサンショウウオ」は、地域の宝と考えているので、これらを最大限生かす活動をしていきたい。

